

学

業に打ち込む傍ら、市民ランナーとしてほぼ毎月、時には2週続けてマラソン大会に出場。数々のレースで好成績を収め、11月に開催される第1回おかやまマラソンでは初めて招待選手に選ばれた。

初マラソンは平成23(2011)年2月。大学卒業を間近に控え、中学から続けてきた陸上競技をやめる前の最後の思い出にと出場した。記録は2時間43分1秒。「教員の新任研修を受けている最中に、「あと1分早ければ福岡国際マラソンに出られたのに」という先輩の言葉を思い出し、その大会に出たいとまた走り始めました」

春からは技術科教員として働きながら、まずは11月の大阪マラソンで2時間40分を切ることを目標に、出勤前や帰宅後に練習を重ねた。そして迎えた本番、設定タイムを大幅に上回ったことで、「一気にめり込んだという」。

以来、休日を利用して全国各地の大会に参加。「知らない道を走れることがマラソンの醍醐味です。沿道で太鼓やダンスの応援があったり、名物料理が並んでいたりと地元の温かいもてなしも大きな魅力ですね」

一方、赴任した特別支援学校では教員として大きな壁にぶつかる。「自分の中に引き出しがなさすぎて無力感に襲われました」。もう一度学び直したいと、1期生だった父親の母校である兵教大大学院に入学。現在は研究の合間を縫い、キャンパス周辺を毎日走っている。

印象に残っているレースに、今年2月の東京マラソンを挙げる。大会2日前、痛めていた太もも裏の肉離れが再発。それを気にするあまり、当日もずるずるとペースが落ちていった。「32キロで『何のために出てるんや』と自問自答し、思い切ってスピードを上げました。意外にも、そのまま最後まで走り切れたのです」。結果的に自己記録を2年3カ月ぶりに更新する好タイムとなった。

「何事も最後まで可能性があるうちは諦めたら駄目だと実感しました。マラソンで得た経験は、教員に戻ってから生徒たちに伝えたいです」

諦めないことの
大切さを
生徒に伝えて
いきたいです

キラリな人 SHINY PERSON

ひがし だ かおる 東田 薫さん

修士課程
行動開発系教育コース2年

昭和62(1987)年、大阪市生まれ。大学卒業後、大阪市立視覚特別支援学校で中学部技術科を3年間担当。平成26(2014)年に大学院入学。主な戦績は第22回津山加茂郷フルマラソン全国大会連覇、第26回加古川マラソン総合優勝など。自己ベストは東京マラソン2015の2時間26分1秒。



今年4月に出場した和歌山県新宮市の「第17回奥熊野いだ天ウルトラマラソン」では、65kmの部門で連覇を達成した

